

平成27年3月14日(土)
第45回日本臨床化学会新潟分科会

R-CPC問題症例

新潟大学大学院医歯学総合研究科
井口清太郎

症例1：30歳男性

- 主訴：起座呼吸、全身浮腫
- 既往歴：特記すべき事項無し
- 家族歴：詳細不明
- 社会歴：就労無し、引きこもり
- 現病歴：X-6ヶ月、下肢の浮腫出現。X-2ヶ月より更に増悪、X-2週には自分で動けず、近医より往診、利尿薬を処方されたが効果なく、更に起座呼吸出現のため救急車にて当院に搬送されてきた

症例1：入院時現症

- 身長 171cm, 体重 測定不能(恐らく120kg程度)
- 血圧 216/132 mmHg、脈拍 72/分、整、体温 36.2℃、結膜：貧血あり、
- 顔面：眼瞼浮腫あり。
- 胸部：心雑音なし。全肺野に湿性ラ音を聴取。
- 腹部：膨満あり。肝脾を触知せず。腸雑音正常、圧痛なし。腹壁にも著明な浮腫を認める。
- 四肢：著明な浮腫あり。陰嚢水腫も認める。
- 神経学的所見：腱反射は低下している。

入院時一般検査

〔血算〕		〔生化学検査〕			
WBC	12070 / μ l	TP	5.7 g/dl	CRP	3.4 mg/dl
RBC	333 $\times 10^4$ / μ l	Alb	2.1 g/dl		
Hb	9.7 g/dl	BUN	63 mg/dl	HbA1c	7.1 %
Ht	28.3 %	Cre	5.7 mg/dl	FBS	212 mg/dl
Plt	33.9 $\times 10^4$ / μ l	Na	132 mEq/L		〔検尿〕
		K	5.1 mEq/L	比重	1.014
		Cl	97 mEq/L	pH	6.0
		Ca	8.2 mg/dl	蛋白	(3+)
		iP	6.6 mg/dl	糖	(1+)
		AST	18 IU/L	尿潜血	(3+)
		ALT	21 IU/L	沈渣	赤血球 多数/F
		LDH	350 IU/L		白血球 16-20/F
		ALP	397 IU/L		扁平上皮 1/10F
		ChE	279 IU/L		小円形上皮 3-5/F
		T.bil	0.3 mg/dl		卵円形脂肪体 1/10F
		D.bil	0.1 mg/dl		硝子円柱 3-5/5F
		CPK	240 IU/L		顆粒円柱 1-2/5F
		T-C	202 mg/dl		蠟様円柱 1/30F
		TG	154 mg/dl		
〔凝固〕					
aPTT	33.5 s				
对照	28.2 s				
PT	12.7 sec				
PT%	80 %				
〔血液ガス検査(RA)〕					
pH	7.402				
PaCO ₂	33.2 mmHg				
PaO ₂	63.0 mmHg				
HCO ₃ ⁻	20.2 mmol/L				

入院時特殊検査

〔蓄尿〕

Ccr 8.2 ml/min
U-P 9.1 g/day

〔血液検査〕

β 2-MG 14.7 μ g/ml

〔甲状腺機能〕

TSH 11.47
 μ IU/ml
fT4 1.2
ng/dl



症例1

- 本症例の腎不全は慢性によるものでしょうか、それとも急性によるものでしょうか？
- 本症例の原疾患は何がもっとも考えやすいのでしょうか？

症例2：54歳男性

- 主訴：全身のしびれ、倦怠感
- 既往歴：特記すべき事項無し
- 家族歴：特記すべき事項無し
- 社会歴：会社の管理職、単身赴任中
- 現病歴：これまで会社の健診で尿異常を指摘されるも放置してきた。X-1ヶ月、倦怠感が出現。X-2週には両上肢のしびれも出現してきた。X日、更にしびれが増悪し、経口摂取もできなくなったため来院した。

症例2：初診時現症

- 身長：174.8 cm、体重 81.8 kg、血圧 158/102 mmHg、脈拍 80 bpm、整
- 意識清明
- 結膜：貧血あり、黄疸は認めず
- 顔面：浮腫を認めず
- 胸部：心尖部にてLevine 2/VIの収縮期雑音を聴取する
- 腹部：平坦、軟、圧痛無し
- 四肢：軽度浮腫あり、両上肢の著しいしびれ感あり(箸、筆記具を持ってない)

初診時一般検査

〔血算〕

WBC	6200 / μ l
RBC	305 $\times 10^4$ / μ l
Hb	9.1 g/dl
Ht	28.9 %
Plt	16.8 $\times 10^4$ / μ l

〔凝固〕

PT	11.8 sec
PT%	98 %
PT-INR	1.01

〔血液ガス検査(RA)〕

pH	7.360
PaCO ₂	35.1 mmHg
PaO ₂	99.6 mmHg
HCO ₃ ⁻	16.2 mmol/L

〔生化学検査〕

TP	6.9 g/dl
Alb	3.7 g/dl
BUN	86 mg/dl
Cre	9.8 mg/dl
UA	8.2 mg/dl
Na	138 mEq/L
K	5.4 mEq/L
Cl	104 mEq/L
Ca	6.1 mg/dl
iP	5.4 mg/dl
AST	9 IU/L
ALT	11 IU/L
LDH	272 IU/L
ALP	210 IU/L
Amy	127 IU/L
CPK	95 IU/L
T.bil	0.8 mg/dl
D.bil	0.4 mg/dl

TC	211 mg/dl
TG	121 mg/dl
HDL-C	41 mg/dl
FBS	108 mg/dl
HbA1c	4.8 %
CRP	0.1 mg/dl

〔検尿〕

比重	1.008
pH	5.0
蛋白	(2+)
糖	(-)
尿潜血	(1+)
沈渣	RBC 10-20/F
	WBC 1-2/F
	硝子円柱 1-2/10F
	顆粒円柱 1/10F

症例2

- 本症例の主訴の主たる原因は何でしょうか？
- 本症例の腎不全は慢性によるものでしょうか、それとも急性によるものでしょうか？
- 本症例の原疾患は何がもっとも考えやすいでしょうか？

症例4:80歳女性

- 主訴：特になし
- 既往歴：
 - 59歳、甲状腺機能低下症
 - 68歳、ネフローゼ症候群
 - 77歳、交通事故
- 家族歴：特記すべき事項無し
- 現病歴：
 - 微小変化型ネフローゼ症候群、甲状腺機能低下症にて当科外来で加療されていた。X-3月、定期の血液検査で徐々に異常値が出現してきた。

症例4:内服薬

- アルファロール(0.25 μ g) 2C 2 x M,A
- ディオバン(80) 1T 1 x M
- ノルバスク(5) 1T 1 x M
- ガスター(20) 1T 1 x M
- プレドニゾロン(5) 1.5T 1 x M
- ネオオーラル(50) 2C 2 x M,A
- ネオオーラル(25) 1C 1 x M
- チラージンS(50) 2T 1 x M
- ハルシオン(0.25) 1T 1 x vdS

症例4:来院時一般検査

〔血算〕

WBC	8900 / μ l
RBC	412 $\times 10^4$ / μ l
Hb	13.5 g/dl
Ht	39.8 %
Plt	20.6 $\times 10^4$ / μ l

〔特殊検査〕

シクロスポリン	<30 ng/mL
目標範囲は	100~150 ng/mL

〔生化学検査〕

TP	7.0 g/dl
Alb	3.7 g/dl
BUN	30 mg/dl
Cre	0.93 mg/dl
Na	145 mEq/L
K	3.5 mEq/L
Cl	110 mEq/L
Ca	9.0 mg/dL
iP	2.4 mg/dL
AST	16 IU/L
ALT	13 IU/L
LDH	229 IU/L
ALP	442 IU/L
CPK	52 IU/L
T.bil	0.8 mg/dl
D.bil	0.2 mg/dl

TSH	42.79 μ IU/mL
freeT3	1.4 pg/mL
freeT4	0.8 ng/dL

〔検尿〕

比重	1.026
pH	6.0
蛋白	(+-)
糖	(-)
尿潜血	(+-)
沈渣	赤血球 1-4/F
	白血球 10-19/F
	扁平上皮 10-19/F
	硝子円柱 1-9/LPF
	上皮円柱 <1/LPF
	腎尿細管上皮 <1/HPF

症例4：経過

	X-7M	X-2M	X-1M	X	X+1M
TSH	4.88	31.92	42.79	94.45	69.26
fT3	1.9	1.4	1.4	1.0	1.4
fT4	1.2	0.8	0.8	0.7	0.9
シロ入ホ°リン	116	<30	<30	1403	
WBC	9790	8830	8900	8770	7970
TP/Alb	6.5/3.9	6.4/3.3	7.0/3.7	6.9/3.5	6.5/3.7

単位は省略

症例4

- 本症例の経過はどのように考えればよいのでしょうか？
- 本症例への対応に必要なことは何でしょうか？